

# 日本語に習熟していない外国人材向けの英語キャリアカウンセリング

—支援者（キャリアカウンセラー）の実践力向上を目指した取り組みから—

田中久実（Language Plus One）， 國井久美子（フリーランス）

## 1. 背景・目的

大学あるいは大学院入学から卒業まで英語のみで学べる英語トラックは、2021年5月時点で1,059コース（JASSO, 2022）存在する。しかし、英語トラックの留学生は、キャリア形成および就職支援における英語対応が不足していることから、長期的キャリアの検討や日本語学習等の時機を逃し、望むキャリア形成が必ずしも容易ではない。留学生支援を担う人材の育成及び確保が課題であるが、「留学生の就職相談を担う者の資質を問う研究は依然として進んでいない」（佐藤, 2021）上に、英語を介して支援に携わる人材の育成方法・研修等はほとんど例が見られない。そこで筆者の田中は、英語トラックの留学生を含む英語話者の支援を行うキャリアカウンセラー（以下、英語CC）の育成・研修モデルを策定し、これを用いた英語カウンセリング勉強会（以下、勉強会）を開催し、その効果を検証することにした。

## 2. 実践・研究方法

英語CCの育成・研修モデルは、ホフマンの習熟度スケール（Hoffman, 1998）に基づき「入門者」「初心者」「見習い」を経て「一人前」となり実践の場に立てるようになることを目指して設計した。

表1 英語CCの育成・研修モデル

習熟度スケール	勉強会における実施内容
入門	・勉強会の紹介ビデオと英語表現リストの参照 ・勉強会の見学
初心者	・英語話者と18~20分程度のキャリアカウンセリングのロールプレイ、他参加者との振り返り、よりよい対応方法を検討するディスカッション ・振り返りシート記入、提出 ・参加者限定のSNSで、他参加者との情報交換
見習い	・知識獲得を目的とした学習イベントへの参加（実施実績：在留資格、難民、留学生等） ・無償キャリア相談会で、一般の英語話者への50分カウンセリング
一人前	・勉強会の場を離れ、各自が業務（有償）としての英語キャリアカウンセリングを実践

2023年7月に立ち上げた勉強会は、月2、3回のペースで、自由参加型で開催し、2024年10月末時点で計36回実施、延べ20人が参加した。

## 3. 結果・考察

参加者のうち、計10回以上参加し、「入門」から「見習い」ないし「一人前」の段階に進んだ英語CCの4名を対象にインタビュー調査を行い、勉強会の効果を測るため以下の3点を確認した。①自身の成長や変化、②実践で役立った事、③参加のモチベーション

調査の結果、英語CCは「見習い」「一人前」に至る過程で、勉強会への継続的な参加を通じて、以下のように変化したことが分かった。

### a. 経験不足に基づく不安から自信への変化

参加当初は「日本語でも難しいカウンセリングが英語でできるのか」と不安を示していた英語CCらから、参加回数を重ね「やればやるほど自信がついていく」といった意見が見られた。

### b. 各自で勉強会外での学習を開始

外国人からの相談を理解する際、文化的背景や価値観の違い、在留資格による制約等の知識が求められる。こうした知識習得の重要性を理解し、自主的に学習を開始していたことが分かった。

### c. 勉強会での学びを実践で応用

実務において勉強会でのロールプレイと「似たようなケースに当たった」、相談者の話の要約や努力を認めようといった「傾聴スキルを使うことが最近増えてきた」など、身につけたスキルや知識を実務で応用している様子が見て取れた。

また、4名の英語CCが繰り返し勉強会に参加している動機として、①意思を持って取り組む仲間の存在、②多様な相談ケースからの学び、などが挙げられた。これは、開催回ごとに異なる相談ケースを扱い、相談への対応方法を参加者同士で議論するという勉強会の実施内容が、参加者にとっての価値となり、継続的な参加意欲につながっているものと考察される。

## 4. 課題

英語での支援に不慣れな英語CCには、英語力そのものの向上と実践機会のさらなる提供が必要と考える。また、勉強会への参加頻度は様々であり、参加者が体系的に知識・経験を獲得したとは言いがたい。「一人前」の定義を明確にし、体系的なプロセスを通じてより多くの英語CCを輩出し、外国人のキャリア支援に貢献したい。

## 参考文献

- (1) 佐藤幸代 (2021) 「留学生のキャリア形成支援・就職支援をめぐる研究の動向と主要論点」『名古屋高等教育研究 第21号』227-246
- (2) 独立行政法人日本学生支援機構 JASSO (2022) 「University Degree Courses Offered in English」
- (3) Hoffman, R. R. (1998). How can expertise be defined?: Implications of research from cognitive psychology. In R. Williams, W. Faulkner, & J. Fleck (Eds), Exploring expertise (pp.81-100). New York: Macmillan.